

資料 2 - 1
学術分科会
学術研究推進部会（第10回）
H17.6.7

JSPS



Japan Society for the Promotion of Science

「学術における国際共同研究の推進」 ～ 国際化推進委員会の議論から～

独立行政法人 日本学術振興会

理事長 小野 元之

学術をめぐる国際情勢



- 「知」をめぐる世界大競争の時代
- 世界共通の課題の増加
- 科学技術・学術の進展に伴う国際展開への要請
- 地域連合の発展とアジアの台頭



■ 「知」をめぐる世界大競争の時代

主要国間では…

競争的取組

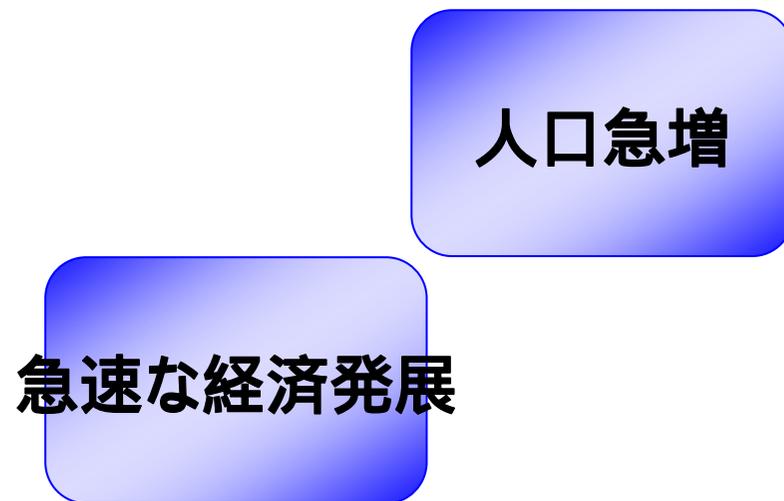
優れた
研究人材の
流出懸念

優れた
研究人材の
獲得競争

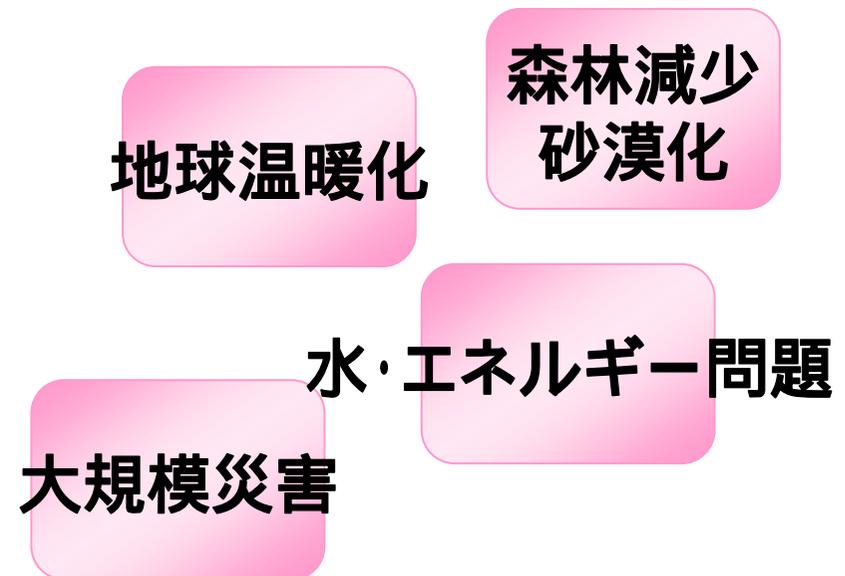


■ 世界共通の課題の増加

持続可能な発展への危機感



地球規模の問題





■ 科学技術・学術の進展に伴う国際展開への要請

国際展開は本質的に不可避

高い研究レベルの
維持

迅速な情報交換

大規模化

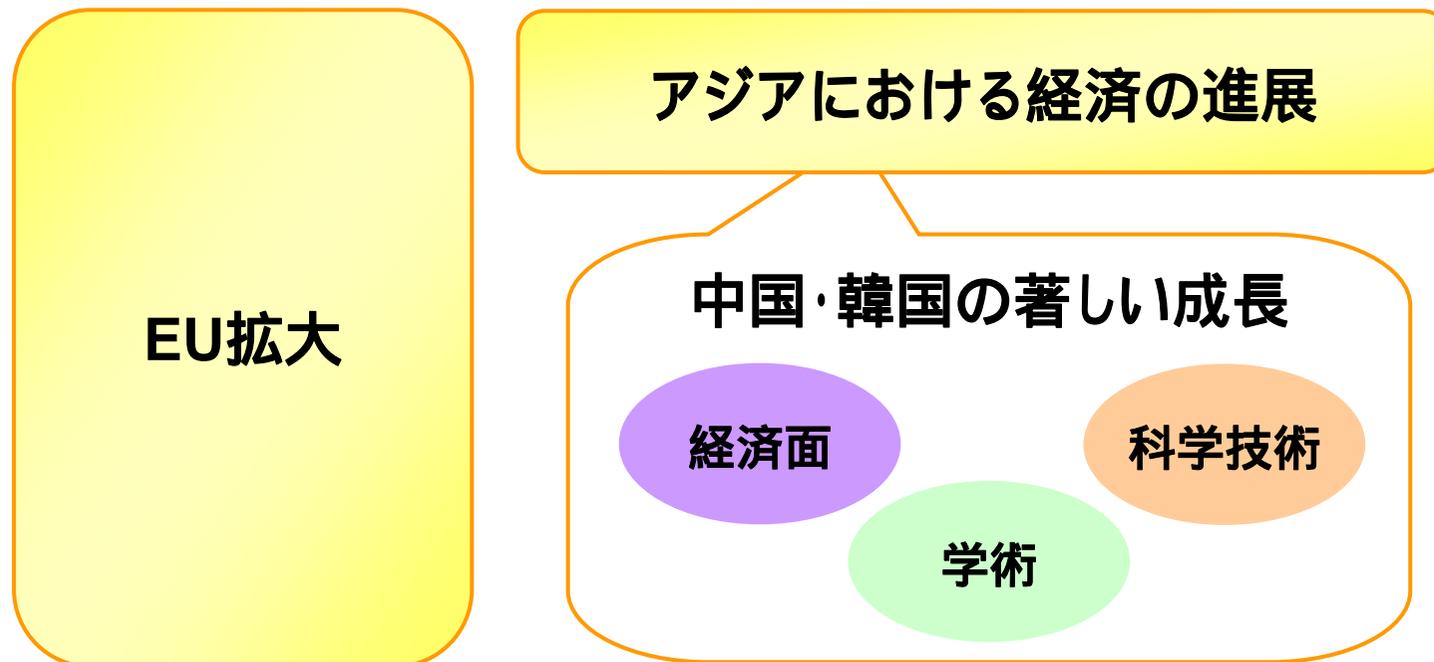
コストの増大

効率的な分担



■ 地域連合の発展とアジアの台頭

グローバル化と並行する地域連合



日本のイニシアティブ

- 国際的な協力を必要とする学術研究において -



■ 国際戦略を考慮した活動

- 国際動向の調査・分析
- 交流の積極的展開(我が国学術関係機関の海外拠点を核に)

■ 地域連合の発展とアジアの台頭

- 地球規模問題や安全・安心な社会への構築におけるリーダーシップ



■ 科学技術・学術の世界的水準維持

「知」をめぐる世界的競争への対応

我が国の社会・経済発展への還元意識

欧米先進諸国等との連携・協調

日本のイニシアティブ (2)



先進8か国研究会議長会合 (G8-HORCs)

- 1979年第一回会合を西ドイツで開催
- G8メンバー国の研究支援機関が参加(カナダ、フランス、ドイツ、イタリア、日本、ロシア、英国、アメリカ合衆国)
 - 1994年の第13回会合と2002年の第21回会合を日本で開催
- テーマ
 - 近年の科学技術政策の動向
 - 科学技術政策へのシンクタンクの役割



NRC
NSERC



DFG
MPG



JSPS



EPSRC



CNRS



CNR



RFBR



NSF

政府としての支援

- 研究者が国際共同研究に取り組むために -



■ 魅力ある研究環境の実現

- 世界から研究者、技術等の知的資源が集まる「場」の構築
- 特長を活かした国際展開(大学・研究機関、地域等)
- ファundingの充実・強化

■ 国際的研究人材の養成・確保とネットワーク化

- 「知の出会い」の場の充実 知的触発の活性化、研究人材間の継続的な「ネットワーク」の構築
- 優れた外国人研究者と自国の在外研究人材の大学等への受入れ
- 若手研究者の海外派遣の促進



■ 国際活動基盤の強化

- 大学における特色ある組織的な国際展開に向けた取組の支援
- 海外拠点を核とした事業の総合的实施及び連携の促進
- 国内研究成果の国際的情報発信力の強化

大学における国際化戦略



知の世界大競争

優秀な研究者を世界から
国際競争力のある大学に

全学的な取組体制

外国人研究者の受入環境整備

海外の大学等との連携

【今まで】
研究者個人の活動



【これから】
大学における特色のある組織的な国際展開

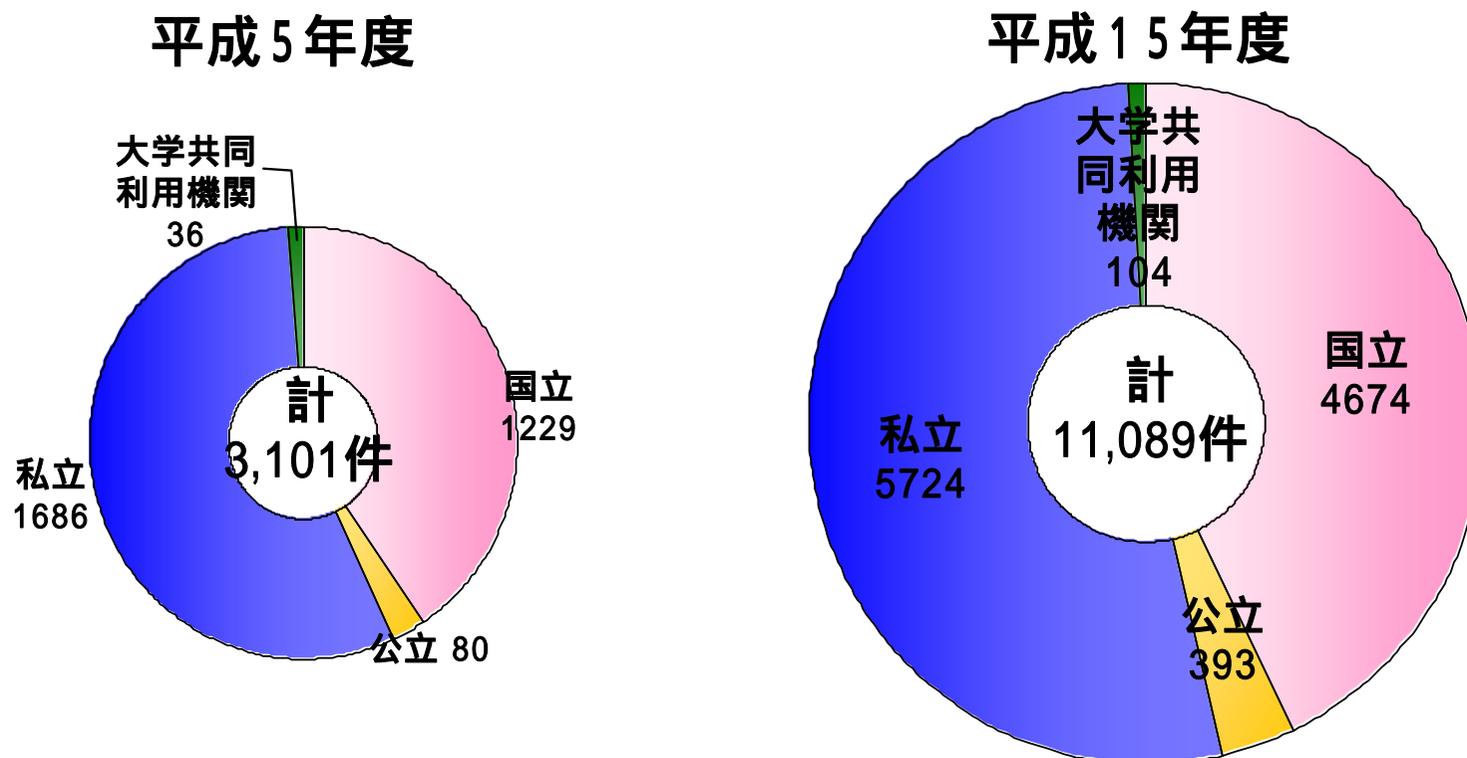
〈大学国際戦略本部強化事業〉17年度新規 MEXT / JSPS

- ・20大学等を5年間支援
- ・JSPSがモデル開発

国際条約・協定等と国際共同研究



■ 大学等間交流協定の拡大





- 日本学術振興会における
二国間・多国間協力の拡大

個人の研究者交流

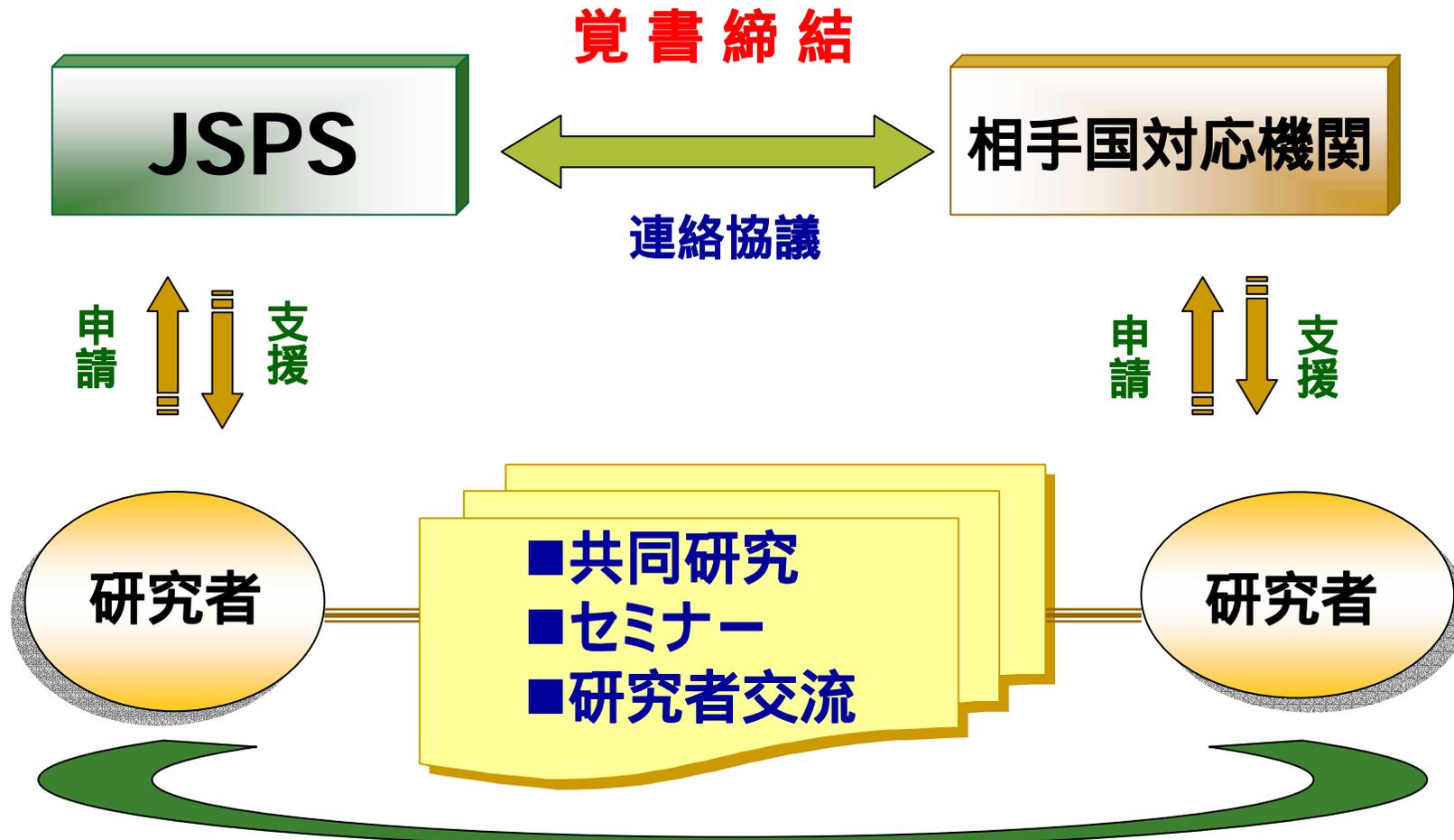


大学・研究機関同士の共同研究

国際条約・協定等と国際共同研究(3)



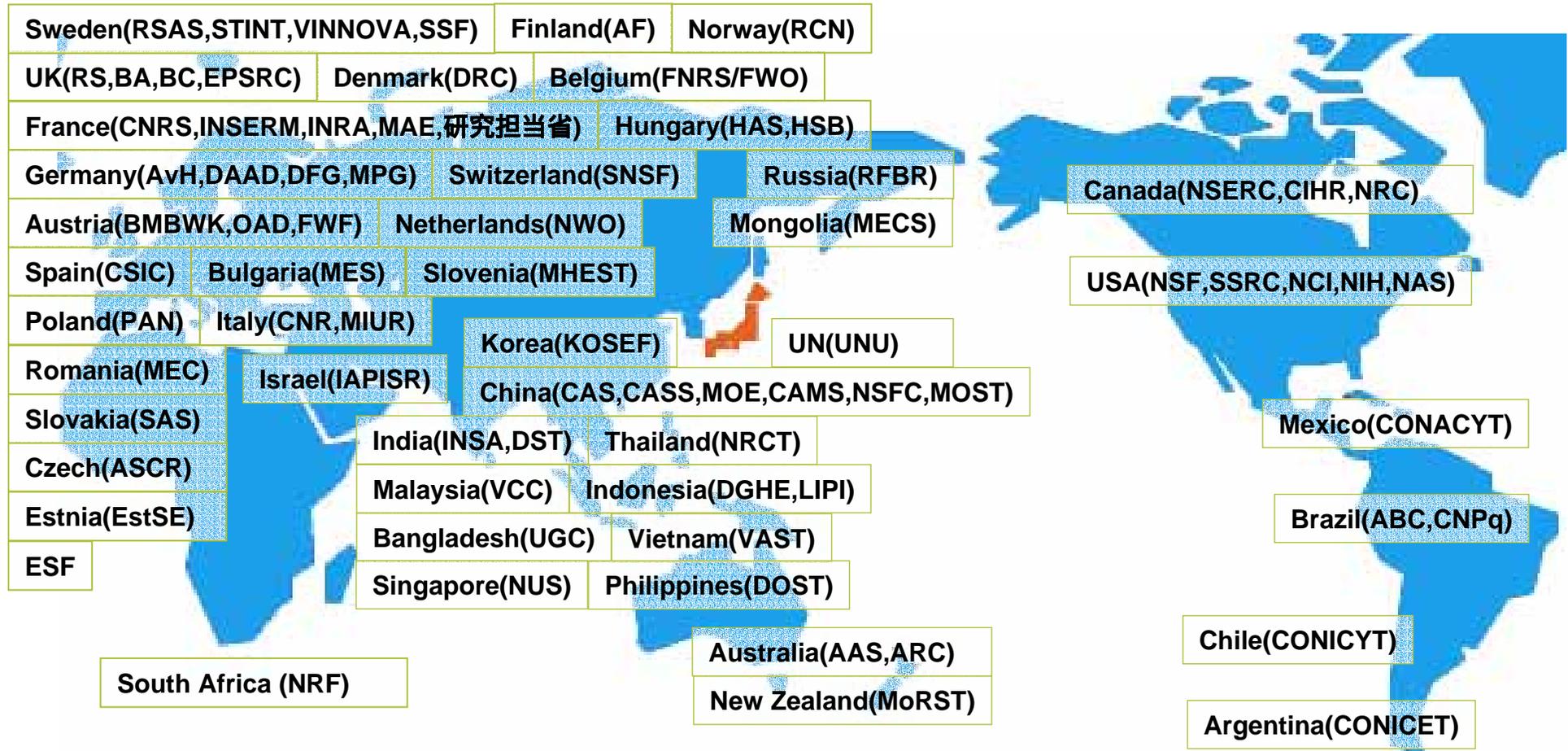
二国間交流





本会の海外対応機関

(43か国、2国際機関を含む78機関)



国際条約・協定等と国際共同研究(5)



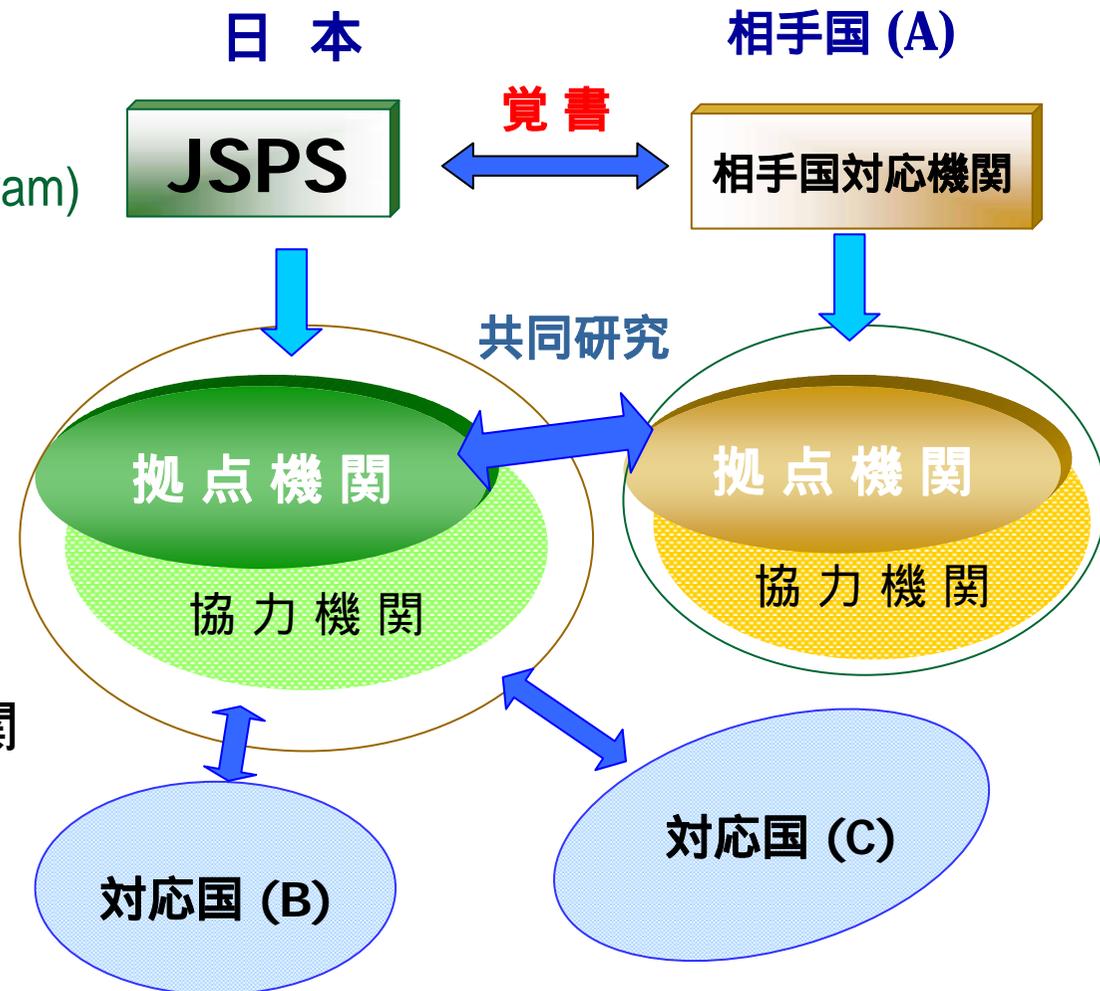
ニュージーランド研究科学技術省(MoRST)との覚書調印式
(2005年6月1日、於東京)



多国間交流

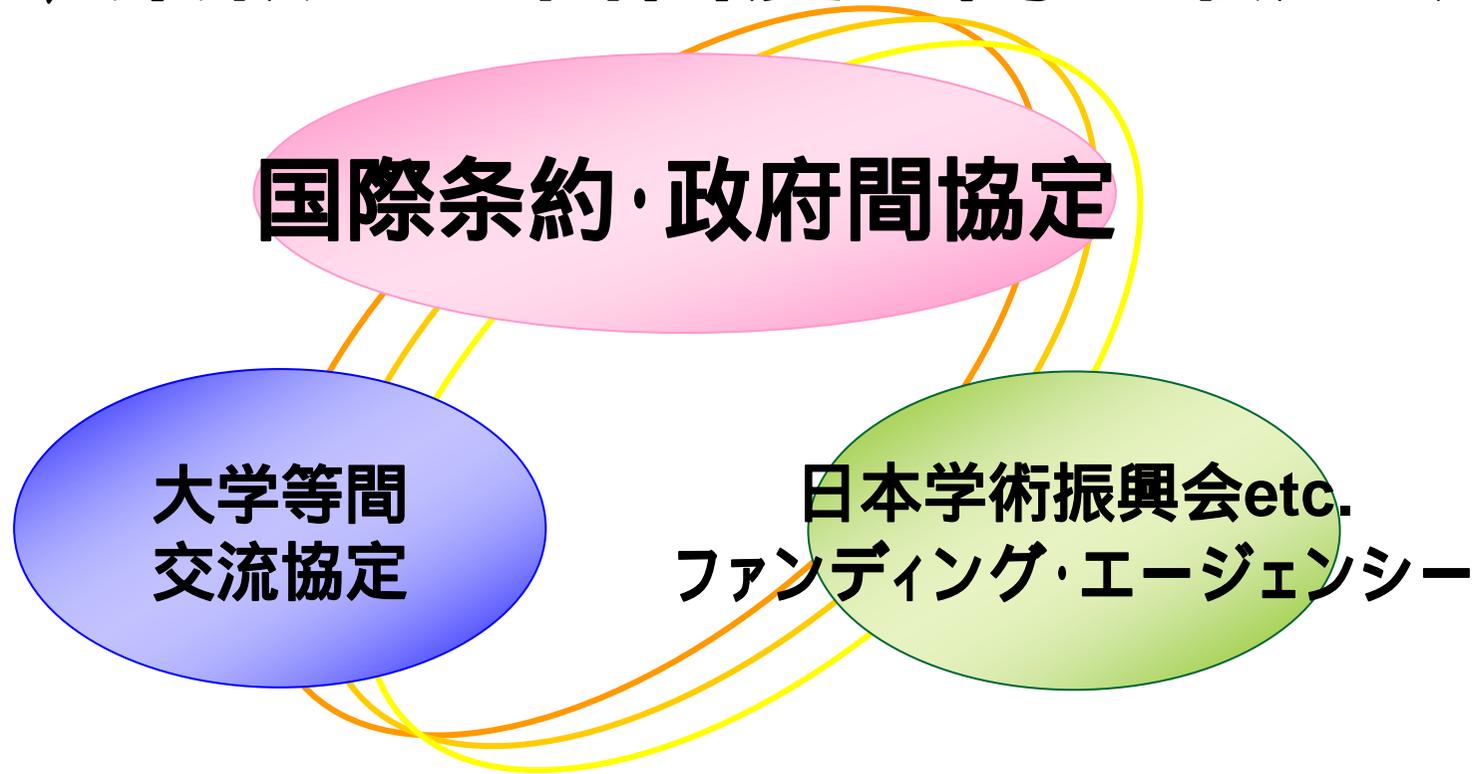
先端研究拠点事業
(JSPS Core-to-Core Program)

- 先端分野における拠点間交流
- 最先端科学における若手研究者の交流
- 平成17年度: 20拠点機関





- 国際条約・政府間協定とも連携しつつ、柔軟かつ自由度の高い取組み



アジア諸国との連携推進



■ アジアにおける連携強化

- 東アジア科学技術コミュニティの構築
- 将来のアジアにおけるコミュニティを担う人材養成。
- アジア共通の課題解決への協働
環境問題、自然災害、新興・再興感染症対策等

■ 日中韓パートナーシップの強化

- 東アジア地域協力の先導
- 先端的課題及び、共通課題への挑戦
- 競争力があり、安定し魅力ある地域の実現



日・中・韓学術振興機関長会議

(Asian HORCs¹)

- 第1回会議:平成15年11月、於東京
- 第2回会議:平成16年12月、於上海
- 3カ国の学術振興機関(JSPS, NSFC, KOSEF)
2の長が自由な意見交換を行う

1 HORCs: Heads of Research Councils

2 NSFC: 中国国家自然科学基金委員会

KOSEF: 韓国科学財団

■ 議題

- 科学技術政策をめぐる最近の情勢
- 将来的な3カ国連携の方向性

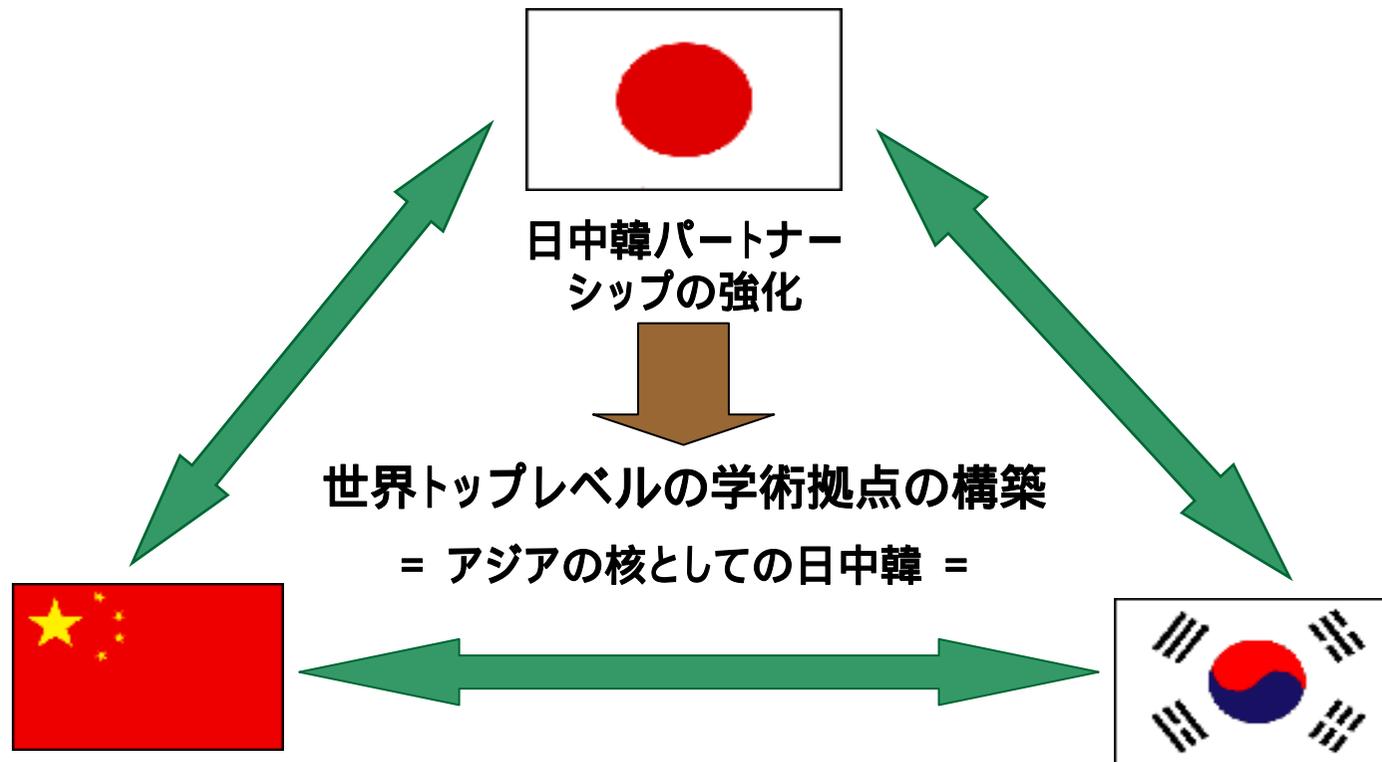
日中韓(A3)フォーサイト
プログラム



【第1回会合(東京)の様子】



日中韓(A3)フォーサイトプログラム



日中韓・学術振興機関長会議(A-HORCs)参加機関により実施

日本	中国	韓国
JSPS	NSFC	KOSEF

NSFC: 中国国家自然科学基金委員会

KOSEF: 韓国科学財団



アジア・パートナーシップ事業

アジア研究教育拠点事業

(Asian CORE Program)

- ・アジアを世界の3大大学術センターとするため、先端的な共同研究や若手研究者の育成を実施
- ・先端的又は国際的に重要と認められる研究課題
- ・対応機関を設定し、相手国からも支援を受ける
- ・**公募制**
- ・最長5年間(3年目に中間評価)
- ・二国間又は多国間

アジア・アフリカ学術基盤形成事業

(AA Science Platform Program)

- ・我が国の研究機関が主導的役割を果たし、アジア・アフリカ地域の課題解決に貢献
- ・アジア・アフリカに特有、又は同地域で特に重要である研究課題
- ・各国学術振興機関等からの支援は必須としない
- ・**公募制**
- ・最長3年間
- ・多国間が原則

Japan Society for the Promotion of Science
Motoyuki Ono President of JSPS



Thank you.

独立行政法人日本学術振興会
理事長 小野 元之